

「小さな親切」運動本部賞

あこがれていたおにいちゃん

鹿児島県 漆小学校 二年 川島航旗

ぼくには、二人のおにいちゃんがいます。けんかをすると、ぜったいまけます。ぼくがおおなきしても、やさしくなってくれませんか。おにいちゃんなんだから、もっとやさしくしてくれればいいのに。ぼくにも、弟や妹がいたらいいな、そしたらやさしくしたいな、とずっと思っていました。

四月のにゅうがくしきで、二人の一年生がきました。ぼくは、どんな子がくるのかな。と、むねがワクワクしていました。ぼくの小学校は、ふくしきがつきゅうです。一年生と同じきょうしつでべんきょうします。ぼくのせいのはんぶんぐらいの、小さくてかわいい一年生でした。

ランドセルをかたにかけると、体がかくれてしまいそうなくらいです。上げきをはくときには、ゆかにおしりをつけてはいたり、きゅうしょくのあと、ぎゅうにゅうパックをひらくときには、ギザギザバラバラに紙がちぎれたり。きがえなんて、ぼくがきがえおわったころ、やっとぬぎおわるくらいゆっくり。なにをやってもうまくできないし、時間がかかる一年生でした。そんな一年生がいっしょだと、またされることもたくさんありました。

「もういいかげんにしてよ。もっと早くしてよ。」

と、イライラします。

「またか、早くして。なんでできないの。」

と、大きな声で言いそうになりました。

「一年生は、はじめてのことが多いから。そんなときには、二年生が手本になってね。」

ドキッとするような先生のことば。ちょっとまでよ、ぼくも一年前は同じだっただろうなと思いました。きっと、二年生のおにいさんやおねえさんは、やさしくしてくれたはずです。ずっと、あこがれていた妹や弟ができたのだから、ぼくにできることがあるかもな、と思いました。

それから、なれない「おにいちゃん」をがんばってみることにしました。ほんとうは、いちばんがだいすきなぼくだけど、

「先にいいよ。ぼく、さいごでいいから。」

ブランコのじゅんばんをゆずることができました。

「これはおもいよ。ぼく、力もちだからぼくにまかせて。」

めんどろなことはきらいだけれど、マットあそびのときには、だれよりも早く行ってマットをはこぶことができました。

「こうすればいいんだよ。こんどはきつとうまくいくよ。だいじょうぶだよ。」

やさしいことばが、どんどんぼくの口からたきのように出てきました。

「こうきさんが、こまったときにはすぐにたすけてくれます。うれしいです。」

かえりの会で、一年生からうれしかったことがはっぴょうされて、はずかしくなりました。学校では、ぼくはおにいちゃん。じしんをもって、これからもやさしくしていきたいと思います。